

## □最近の活動状況

## 【第6回朝食勉強会】

—10月10日(火) クーラクーリアンテ・サンパレス—

講師 株式会社東邦コンサルティングパートナーズ 代表取締役社長 矢吹 光一 氏

テーマ 2023年大胆な事業変革(イノベーション)の時～地域を支える事業者の皆様とともに～

参加会員数 41名

## (講演要旨)

中国で2019年12月に新型コロナの感染者が報告されてからパンデミックが始まり、今日に至るまで大変な苦境の中、経営を強いられてきました。また、ロシアのウクライナ侵攻などによりエネルギー価格や資材価格の高騰、更には円安も相まって金利上昇など課題が山積しています。

このような状況だからこそ、大胆な経営革新が求められています。経営革新を起こすということは行動変容です。イノベーションは、あくまでも結果であり、その前に決断があります。富士フイルムやキッコーマンのように、変化を恐れずに突き進んだ結果、変革を成し遂げることができます。困難な状況下でも、歴史を学び、長期的視点に立ち、大胆に事業の方向転換を行うことが重要となります。

リーダーは、現状に満足せず、変化を恐れず新たな価値創造に挑戦する姿勢が必要です。リーダーの役割は、見える現状の1%から見えない99%を探り出し、新しい世界を創造することであり、感性とビジョンがリーダーに求められます。

産業の新陳代謝が起きなかったことが、「失われた30



講師 矢吹 光一 氏

年」の根底にあると考えます。その原因は何か。日本では「起業」という選択肢を親も先生もすすめない風潮があります。グローバルにおいて、優秀な人材には「起業しなさい」と育てていきます。このように支えていく仕組みを創ることが求められています。政府は、スタートアップ育成計画として5年後に投資金額を10兆円まで引き上げると表明しています。挑戦を応援するステージへ行動変容を起こしていくことが我々には必要です。

経営者として、傾聴、共感、承認、共創がとても大事だと思います。正解が分からない時代は、自ら現場に立ち続けることが必要です。そのためには、体力、気力、情熱が欠かせないと考えます。

今の仕事の原点は、2011年8月、福島県で開催された全国高校総合文化祭で福島県的女子高生が発信したメッセージにあります。福島を愛し、福島の再生に格闘する人々の不撓不屈の精神は、それを支えようとする心ある全国の人々と繋がり、響きあっています。子供たちの輝く未来のために、皆様のお力をお借りしながら、福島の復興・再生に向けて私自身ができることを問い続けて参りたいと思っています。



会場風景

【第7回朝食勉強会】

—11月14日(火)クーラクーリアンテ・サンパレス—

講 師 公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構 専務理事 戸田 光昭 氏

テーマ 福島イノベーション・コースト構想における取り組みについて 参加会員数 45名

(講演要旨)

福島イノベーション・コースト構想(イノベ構想)とは、2011年の東日本大震災および原子力災害によって失われた浜通り地域等の産業回復のために、新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクトです。重点分野として、①廃炉 ②ロボット・ドローン ③エネルギー・環境・リサイクル ④農林水産業 ⑤医療関連 ⑥航空宇宙関連の6分野が定められています。

福島ロボットテストフィールドなどの拠点整備を含めた主要プロジェクトの具体化に加え、産業集積の推進、教育・人材育成、交流人口の拡大、情報発信、生活環境整備の5つの柱で実現に向けた取り組みが進められています。

当機構の活動のうち、産業集積の具体的な取り組み例を紹介します。

重要分野の推進策として、福島県が実施する「浜通り地域等で実用化開発に取り組む企業を支援する『イノベ実用化補助金』」があり、機構は採択事業者の様々な課題解決の支援を行っています。また、イノベ地域(浜通り15市町村)において起業・創業を目指す優れた事業シードを発掘して事業化に至るまでの様々な支援を行う「Fukushima Tech Create (FTC)」という取り組みを実施しているほか、企業誘致や農業への新規参入の推進などに取り組んでいます。

イノベ地域では、2023年4月に、福島国際研究教育機構(F-REI)が設立されました。

F-REIの役割は世界に肩を並べる研究を行い将来的にその成果を産業化することです。

現在、浜通り地域では、2015年に設立された相双復興推進機構、2017年に設立された当機構、そしてF-REIの3つの機構が復興へ向けて活動している状況です。

イノベ構想の実現に向けて、浜通り地域等への産業集積を進めるとともに、その経済的な効果を浜通り地域だけでなく県内全域に波及させることが必要です。イノベ構想には、新しい技術やサービスの開発、起業・創業を目指す、多くの企業が



講師 戸田 光昭 氏

全国から参画しています。

県内の地元企業様にとっては、新たに進出した企業との連携により、自社の独自技術が廃炉やロボットへの応用されること、またバックヤードにおける協力体制や、サプライチェーンの構築へ参加できる可能性があります。

イノベ構想を新たなビジネスチャンスと捉えて、プレーヤーとして参画し、イノベ構想の支援策を活用しながら、今後の事業展開に結びつけていただきたいと思います。



取り組み事例紹介  
(株)リビングロボット代表取締役社長 川内 康裕 氏

## 【第46回経済同友会東北・北海道ブロック会議】

—10月26日(木) ホテルメトロポリタン盛岡ニューウィング—

経済同友会東北・北海道ブロック会議が「VUCA<sup>ブーカ</sup>時代を生き抜くために」をテーマに盛岡市で開催されました。東北6県と新潟県、北海道の各同友会会員161名が参加、福島からは北村代表幹事、芳見代表幹事を始め7名が出席しました。

ワールド・ベースボール・クラシック (WBC) で優勝した日本代表前監督の栗山英樹氏が「人を育てる力」と題した特別講演を行いました。

次に、岩手出身の若手起業家によるパネルディスカッションでは、「VUCA」の言葉の由来である変動性、不確実性、複雑性、曖昧性の4つのキーワードを念頭に意見交換が行われました。

各同友会代表幹事による感想発表において、北村代表幹事が「栗山前監督からデータ分析の重要性や選手自らのリーダーシップなど、組織を運営する中でどの世界でも通用する話をいただいた。組織におけるナンバー1とナンバー2の意思の疎通、



会場風景

信頼性の重要性を改めて感じた」と述べました。

今回は青森県を会場に開かれます。東北・北海道ブロックの同友会メンバーと交流する絶好の機会ですのでぜひ多くの会員のご参加をお願いします。

## □今後の予定

## 【福島経済同友会創立70周年記念式典】

日 時：2024年1月26日(金)  
午後3時30分～ 講演会  
午後5時30分～ 記念式典および懇親会

会 場：ウェディングエルティ  
講 師：笹川平和財団 上席研究員 渡部 恒雄 氏  
テーマ：2024年米国大統領選挙と国際秩序の行方

## 【第9回朝食勉強会】(詳細決まり次第ご案内申し上げます)

日 時：2024年2月13日(火)  
会 場：クーラクーリアンテ・サンパレス  
講 師：原子力災害現地対策本部 副本部長  
内閣府 原子力被災者生活支援チーム 審議官 師田 晃彦 氏

## 編集日誌

- ◇新年おめでとございます。本年もどうぞよろしくお願いたします。
- ◇新型コロナウイルス感染症が「5類」へ移行してから初めて迎えたお正月。国内においてはコロナ前の日常に戻りつつありますが、世界に目を向けると紛争や軍事衝突が起き、先行きはますます不透明になっています。
- ◇今年度、福島経済同友会は創立70周年の大きな節目となっています。1月26日に創立70周年記念式典を開催いたします。今年注目される米国大統領選挙と国際秩序の行方をテーマに、笹川平和財団の渡部上席研究員にご講演いただきます。講演会は一般公開となっておりますので、ぜひ職場の方やお知り合いの方々にもお声掛けいただきご来場くださいますようお願い申し上げます。(今野)

## □会員企業紹介 【第35回 株式会社山川印刷所】

今回は当会の幹事を務めていただいている、株式会社山川印刷所の立花社長にインタビューしました。当社は、印刷技術をベースとした総合的なサービスを提供しており、創業の経緯や人材育成についてなど様々なお話をお聞きすることができました。

### ○創業の経緯

1937年に私の義祖父にあたる山川長之助が、勤めていた伊達郡桑折町の印刷会社から独立したことが創業の経緯です。2代目が山川章、私で3代目です。元々、私は東京で働いていましたが、後継者問題で廃業するしかない聞き、「地域に根差し、培ってきた信頼があるこの会社を残したい、何よりも従業員とその家族を守りたい」と心に決めて入社しました。



立花 志明 代表取締役社長

東京でシステム関係の仕事をしていた私が、畑違いとも言える印刷業を始めるにあたり滋賀県の印刷会社で2年間勉強してきました。業界について学ぶ事がたくさんありましたし、家族も一緒に赴任したおかげで家事や子育ての機会にも恵まれました。

### ○「会社に関わる全ての幸福度を高める」

それまで明文化されていなかった経営理念を、社長就任時に策定しました。本業である印刷というメディアをお客様に提供することに、しっかりと地に足を付けて取り組んだ上で、加えて、時代の変化・お客様の要望の変化に合わせて柔軟に対応し、研鑽を積み、常に進化する会社であり続けることにより、地域社会から永続的に必要とされる会社でありたい、会社に関わる全ての人々を幸せにする活動をしていきたい。人は1人では生きていけないので、お互いを信頼し、支え合い、必要とされるように、会社に働く社員とその家族に、生きる喜び働く喜びを与えられる会社でありたいという思いを込めて作りました。

### ○社員教育

時流を読みお客様へ新しい提案ができるように、また、社員の自己実現や能力向上のため研修会など積極的に参加しています。仕事に追われているため勉強する機会が失われないように、参加する社員の仕事を周りの社員がフォローできるよう、日ごろから社員同士がコミュニケーションを取り、一丸となって研修に挑める環境を整えています。

### ○「お客様のお役立ち隊」になる

以前から、印刷だけで存続していくことは難しいと考えていました。その矢先、東日本大震災が起き、今までのスタイルでは駄目だと突き付けられました。震災後、地域のために印刷会社としてできることを模索する中で、被災された皆さんの困り事は様々で、その困り事を解決するお手伝いをする事が、私たちに求められている重要なことだと感じ誠実に向き合ってきました。

当社では、地域の復興やお客様の成長戦略に必要となる多種多様な業務を、バラバラではなく「一括＝ワンストップサービス」でお請けし、「早さ、正確さ」に「高品質、適正価格」をプラスすることに努めています。お客様の目的に合わせて、印刷物の制作はもちろん、イベントやキャンペーンの企画、Webサイト・動画制作など、最適な提案をする「お客様のお役立ち隊」になることが全社員の望みです。

### ○記憶に残るお手伝い

デジタル技術の発展とともに、チラシやパンフレットなどの印刷物の需要が減り、急激に「紙離れ」が進みました。しかし、私たちが生きるうえで「伝え合う」コミュニケーションが無くなることはありません。これからも、お客様の「思い」を印刷やマルチメディアとして形を変え相手に伝えていく仕事を通して「記憶に残るお手伝い」を続けて参ります。



住 所 〒960-2153 福島市庄野字清水尻 1-10  
 創 業 1937年7月  
 従業員数 78名  
 T E L 024-593-2221  
 U R L <https://www.yamakawa-p.co.jp>

